

cinus をまとめて uncinus とするか “かぎ状” のものでもあきらかにふさ状をしているものは Ci floccus としてしまってもよいのではないかと考えるがどうであろうか。

pl. 152. この図の Cirrocumulus lenticularis の雲片は、互にはっきり放射状 (radiatus) を示している。筆者の観測では Cc の radiatus は決してまれではない。

pl. 151 も今一すじの帯状の Cc があれば、もう radiatus になるわけである。新しい分類では、巻積雲の変種に radiatus をあげていないのであるが、どういふわけであろうか。

以上のほかに

Ci Cs lacunosus (蜂の巣) について

新しい分類では、Cs に lacunosus という変種をあげていない。しかし実際には決してまれではない。また Ci の lacunosus も時々観測される。

pannus (ちぎれ雲) について

新しい分類では pannus は Cu, Cb をのぞけば、As と Ns の付属雲ということになっているが、筆者の観測では Ac, Sc にも pannus に相当するものがあると思う。これらは Cumulus fractus (片積雲; Cl=1) であるとしてしまえば一応はそれでよいというものの、

As は Ac に、Ac は As に、Sc は Ac に、Ac は Sc に、Sc は Ns に、Ns は Sc にそれぞれ変化するから、母雲と変化後にできた雲の間には、互にかよった性質があるとみてよい。この考え方から演繹すると理論上からも、Ac, Sc に pannus があってよいことになると思う。

巻層雲の乳房雲について

新しい分類では、巻層雲の補助雲は一つも上げていないが、この雲の乳房雲はしばしば観測されるので、加えておいた方がよいと思う。

高積雲性高層雲について

高層雲性高積雲 (Ac altostratocumulatus) があるにもかかわらず、高積雲性高層雲 (As altocumulomutatus) がないのはどういふわけだろうか。後者は私の研究ではしばしば観測されるし、高層雲と高積雲は互に変化しあうものであるから、理論の上からもあってよいわけだ。

積乱雲性巻層雲について

積乱雲性巻層雲は Cs cumulonimbogenitus をあげている。これは積乱雲の一部が変化してできた巻層雲であるが、筆者の観測ではしばしば積乱雲の全部が巻層雲になる。

それで Cs cumulonimbomulatus を加えておいたほうがよいと思うがどうであろう。

気象の英語 (23)

25. possibly.

possible (可能な) を副詞にしたもので、わかりきった言葉であるが、注意しないと案外に間違いをおこす語である。普通の肯定文で使われれば、possibly=it is possible that~ の意味であるから、“そういう可能性がある”、“多分”=maybe, perhaps である。Possibly it is as you say. =多分君の言うとおりでらう。では、つぎのように“may=かも知れない”の後に来たらどうだろう。

He may possibly be a good man.

間違い易いのは、may ば“かも知れない”で、possibly は“多分”だから、というので、“彼は多分善人もかも知れない”と訳すことで、これは全く反対の意味である。実は、“He may be a good man.=彼は善人もかも知れない。”ということも可能性がある、というのであるから、“あるいは、彼は善人であるかも知れない(多分善人ではないだろうが)”というのがほんとうの意味である。つまり may possibly は may の否定になるの

である。

can possibly というように、can と一語に使われる時は、possibly=in a possible manner=可能な仕方

で、できる限り、という意味である。たとえば

We have done all we possibly could.

=われわれはできるかぎりのことをした。

Not の後に possibly が来たときは、“多分〜でない”などという生ぬるいものではなく、“とても〜ない”“決して〜でない”という意味になる。それは、possibly=by any possibility=どんな可能性によっても、だからである。あるいは、原理的には not possibly=it is not possible that~ と考えてもよいだろう(意味はもっと強いが)。したがって I cannot possibly do it.=私にはそれはとてもできない。He can not possibly be a good man.=彼は決して善人であるはずはない。

疑問文の時でも反語的になって否定の時と同様の意味になる。How can I possibly do it? =私にどうしてそれができようか? (=私にはとてもそれはできない。)